樹木紹介 41

# ワシントンヤシ(オキナヤシ 翁椰子)

## *Wasingtonia robusta*

樹木医　有田　和實

集合住宅の狭い場所でも

ヤシの仲間には温帯から熱帯迄数多くの種類があり、地球温暖化に伴い生育域を拡大している。その中で、日本・特に千葉県で植栽されているヤシには、ワシントンヤシ、カナリーヤシPhoenix canariensis、ヤタイヤシButia yatay（ココスヤシ）、トウジュロTrachycarpus Wagnerianus などがある。

特に、東京湾岸地区（埋め立て地TDL周辺）や外房（館山市R127）などで多く植栽され、洋風の雰囲気を醸し出している。強烈な風にも耐え、僅かな根域での成長は狭い住棟間でも植栽されている。

樹高は15～20m、掌状葉は直径１～1.5mで、葉先は細烈し、白い糸状の繊維が長く垂れ、翁の髭の如し。

称してオキナヤシと呼ぶ。花序は長さ３～４mに湾曲して垂れ、白色の花を多数つける。雌雄同腫で果実は小指の大きさで丸く熟す。耐寒性にも優れている（ヤタイヤシのほうが寒さに強い）ので、狭い植栽地や街路樹に適している。

ヤシの実の大きさは、果実界最大のフタゴヤシや、ラグビーボール状のココヤシ以外は意外と小さく、ワシントンヤシは小指大、食べられるヤタイヤシはうずら卵大、非常においしいナツメヤシ（Phoenix dactylifera棗椰子・デーツ）は親指大である。

内地での病虫害は沖縄・宮崎県（タイワンカブトムシ、ヤシオオオサゾウムシ、キムネクロナガハムシ）、と比べると非常に少なく、丈夫な造園材料で特異な樹形は新しい景観を作り出し、今後の植栽材料として期待する。